人に、街に、地球にうるおいを

Japan Beverage Report 2013

ジャパンビバレッジグループの概要

ジャパンビバレッジホールディングスの事業概要

社　　名	株式会社ジャパンビバレッジホールディングス
本　　社	東京都新宿区西新宿一丁目24番1号　エステック情報ビル
創　　業	1958年7月 ※組織改編に伴い、2010年7月ジャパンビバレッジホールディングスを設立
資 本 金	5億円
事業内容	グループ全体の経営戦略の策定･推進 自動販売機による各種食品飲料の販売

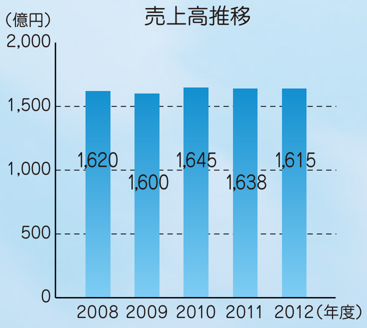
ジャパンビバレッジグループ

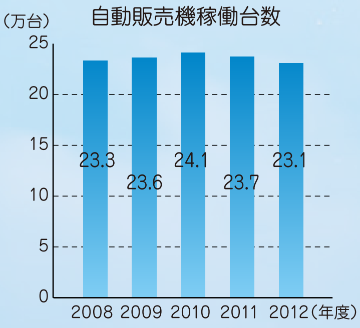
株式会社ジャパンビバレッジホールディングス

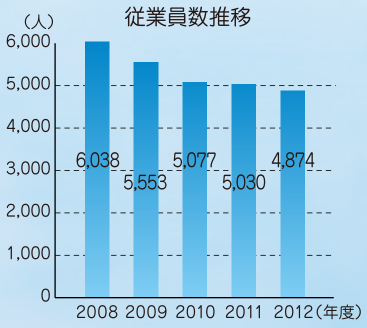
- 株式会社ジャパンビバレッジ北海道
- 株式会社ジャパンビバレッジ東北
- 株式会社ジャパンビバレッジイースト
- 株式会社ジャパンビバレッジ東京
- 株式会社ジャパンビバレッジセントラル
- 株式会社ジャパンビバレッジウエスト
- 株式会社ジャパンビバレッジ中四国
- 株式会社ジャパンビバレッジ九州
- 株式会社ジャパンビバレッジ沖縄

自動販売機による各種食品飲料の販売（オペレーション）

- 株式会社ジャパンビバレッジエコロジー
  飲料容器の再生処理、加工品の販売
- 株式会社ビジネスサポートワークス
  各種事務作業の業務代行
- 株式会社ジェイビーサービス
  各種保険業と業務の代理、事務の代行
- 日新サービス株式会社
  自動販売機による各種食品飲料の販売







※各年4月1日時点の人数です。
※従業員数には、各年パート･アルバイトを含みます。

Japan Beverage Report 2013

CONTENTS

01 ジャパンビバレッジグループの概要

02 編集方針

03 TOP MESSAGE

05 ジャパンビバレッジグループの事業紹介・グリーンオペレーション

07 Highlight 1 グリーンオペレーションで省エネを実現します

09 Highlight 2 お客様とともに社会に貢献します

11 Highlight 3 純度の高い資源をうみだします

13 Highlight 4 企業連携ネットワークにより、循環型社会を構築します

15 Highlight 5 地域に根ざした活動を行っています

16 環境マネジメント＆パフォーマンス報告

18 第三者意見

編集方針

本レポートは、ジャパンビバレッジグループの理念と事業の現状、および環境の取組みを紹介する会社案内および環境報告書の役割を果たします。ステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的に発行しています。

● **参考ガイドライン**
環境報告ガイドライン2012年版

● **報告対象範囲**
ジャパンビバレッジグループ
※環境報告データの対象範囲が異なる場合は、範囲を別途記載しています。

● **報告対象期間**
2012年4月1日〜2013年3月31日
※一部、対象期間外の取組みも紹介しています。

● **発　行**
2013年10月
（次回2014年8月予定）

今ある資源を未来へつないでいきます

事業開始から55年

現在自動販売機は、企業、学校、公共施設等生活のあらゆる場面で稼働しております。ジャパンビバレッジグループは1958年の創業からこれまで皆様にうるおいと喜びに満ちた空間と出逢いを提供するため、魅力ある商品と最高のサービスを第一に事業を行ってまいりました。そして、お陰様をもちまして今年で55年を迎えることができました。日頃より自動販売機をご利用いただいている皆様に深く御礼申し上げます。

自動販売機を取り巻く環境

世界的に今、エネルギー問題が関心を集めております。新たなエネルギー源として、オイルシェールやシェールガスが注目されており、「シェール革命」と呼ばれ世界のエネルギー事情に影響を及ぼしています。国内では、再生可能エネルギーの活用が推進され、コスト面や安定供給等の課題はあるものの資源の乏しい日本にとってはこれからますます普及していくものと思われます。また一方では、東日本大震災以降、原発稼働と電力不足の問題が発生し、それに伴う電気料金の値上げも実施されております。

電力は、自動販売機の稼働には必要不可欠なものであり、ジャパンビバレッジグループの事業活動に最も関わりのあるエネルギーです。そのため、電力不足への対応は重要課題として取組んでまいりました。これまで、機械面ではヒートポンプ機等の省エネ機の導入を実施しました。また、それ以外には設置先のお客様のご要望にあわせ、ピークカット機能、蛍光灯の消灯、再配置提案等を実施いたしました。これにより、自動販売機稼働電力量は前年比で7.3％削減できております。

また、販売後に発生する飲料空容器については、ゴミではなく大切な資源であるため、再資源化に取組んでおります。その取組みの中心となるのが、飲料空容器再資源化工場「リサイクル・プラザＪＢ」です。業界初の自社で回収した飲料空容器を再資源化する工場として2003年に設立し、今年で稼働10年を迎えました。これまでの累計処理量は71,500ｔとなっており、リサイクルの成果をあげています。

経営理念

私たちは、魅力ある商品と
最高のサービスを通じて人々に潤いを提供し、
喜びに満ちた空間と出逢いを創造します。

モットー

「いちばん」を大切にします。

業界No.1のサービスと業績を目指します。

今ある資源を未来へつないでいくためジャパンビバレッジグループは、これからも飲料空容器の再資源化に取組んでまいります。

お客様に支持される企業に

　ジャパンビバレッジグループが今後も自動販売機専業オペレーター№1としてお客様に支持されるために必要なことは、オペレーターとしての「基盤」をしっかりとつくることです。今期は商品の品揃えと営業提案力の充実をはかり、経営理念にも掲げている「魅力ある商品と最高のサービス」をさらに向上させてまいります。また、人材の育成に取組み、グループ従業員5,300名1人1人が力を最大限に発揮することでステークホルダーの皆様に支持される企業を目指してまいります。

　今後ともご支援ご指導をいただきますようお願い申し上げます。

株式会社ジャパンビバレッジホールディングス

代表取締役社長

「もっと」を大切にします。

明日はどうすれば、
今日よりもっとよくなるかを
考え、行動します。

「ちゃんと」を大切にします。

ちゃんとした管理・サービス・
行動により高品質を維持し、
信頼と安全を
お届けいたします。

「やさしさ」を大切にします。

環境にやさしく、
地域社会に歓迎されるよう
努力を惜しみません。

「あなた」を大切にします。

喜びの創造に向け、
“活き活き”とした
魅力ある職場をつくります。

ジャパンビバレッジグループは、業界No.1の自動販売機専業オペレーターです

豊富な製品と充実したサービスでお客様のニーズにお応えしています。

本格コーヒーをお手軽に!
紙カップ式自動販売機事業

本格レギュラーコーヒーをはじめとしたバラエティーに富んだ商品を取り揃え、極め細やかなオペレーション体制により最高品質の味をご提供しています。

ニーズに合った豊富な品ぞろえ!
パッケージ自動販売機事業

パッケージ事業は、缶、ペット、紙パック、ヌードル、その他食品、お菓子等、製品化された商品を扱っています。お客様のニーズに合った魅力ある商品を通じて潤いの場をご提供しています。

オフィスの環境づくりに貢献!
リテール事業

当社の給茶機は、環境にやさしく消費電力量は従来の給茶機よりも約55%削減(当社機比)を実現!お茶類は茶殻のでない風味豊かなパウダータイプ。オフィスと地球の環境を考えた次世代型マルチドリンクサーバーです。

グリーンオペレーションで「提案・販売・回収・適正処理・資源再生」をトータルコーディネート

お客様に「選んで良かった」と安心してご利用いただくために、さまざまな取組みを行っています。

GREEN OPERATION

1 提案・販売

お客様のニーズや設置場所に適した各種自動販売機をご提案します。また、自動販売機に関するさまざまな環境負荷低減の取組みも行っています。

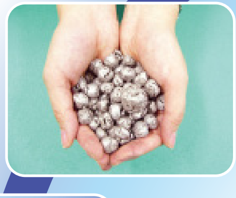
オペレーションに使用する車輌は、低公害車・ハイブリッド車を計画的に導入しています。安全運転とエコドライブでお客様先を訪問します。

2 回収

自動販売機の横に設置している「回収ボックス」の中の飲料空容器をきちんと回収し、営業拠点に持ち帰ります。

3 適正処理・資源再生

回収した飲料空容器は、「リサイクル・プラザJB」をはじめ、全国のネットワーク企業でリサイクルを実施しています。
また、老朽化した自動販売機はできる限りリユースを実施しています。



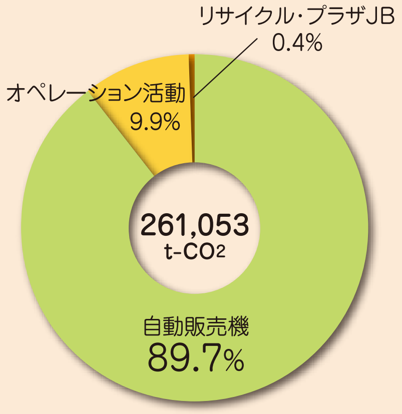
Highlight 1

グリーンオペレーションで省エネを実現します

ジャパンビバレッジグループは、全国で約23万台の自動販売機を設置・運営しています。そのため、設置および運営に関して、さまざまな省エネに努めています。

save energy

重要課題は、稼働中・車輌巡回における省エネ



事業別CO_2排出量構成

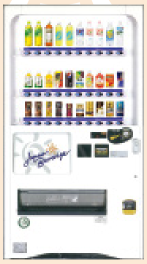
ジャパンビバレッジグループの事業活動の中で環境影響が最も大きいもの、それは自動販売機設置中の電力消費と車輌利用による燃料消費になります。その環境影響をできる限り低減させるために、環境に配慮した事業活動「グリーンオペレーション」を通じて省エネに取組んでいます。

1

当社オリジナル!

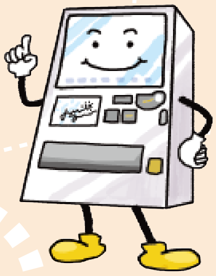
コンビ機の温度設定

各飲料メーカーの売れ筋商品をラインナップしたコンビ機は、通常の自動販売機仕様の設定温度からCOLDの場合+1℃、HOTの場合−1℃への設定変更を2005年度より実施しています。これは、ジャパンビバレッジグループ独自の取組みとなっています。なお、この実施による飲料の飲み頃温度に支障はありません。おいしくお飲みいただけます。



約5% 省エネ

（通常温度設定と比較）



2

熱がもったいない!

ヒートポンプ自動販売機

冷却で発生した熱を効率よく利用するヒートポンプ自動販売機を2007年度から導入しています。

約47% 省エネ

（LED照明つきヒートポンプ機と従来機を比較）

3

高効率! 長寿命!

LED照明への切り替え

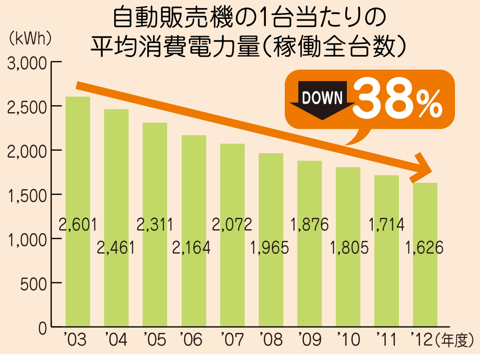
自動販売機内部の照明をLED照明に、切り替えを行っています。LED照明と蛍光灯との電力量の差を自動販売機内に吊り下げ表示しています（2013年度より）。

約60%～70% 省エネ

（蛍光灯との比較。機種により異なる）

自動販売機内部の照明

10年で消費電力量38%削減！



研究開発課での適性テスト

自動販売機の省エネに関する取組みにより、1台当たりの平均消費電力量は10年前に比べ約38%削減できました。

また、自動販売機の機械仕様のさまざまなニーズに対応する専門部署として、埼玉県さいたま市に技術部研究開発課があります。自動販売機メーカーへの機械仕様の打合せや原料の適性テスト等を行い、お客様のご要望にあった自動販売機を提供できるよう日々取組んでいます。

車輌・巡回に関わるグリーンオペレーション

電気自動車

車輌導入計画では、車輌の小型化・省燃費化を推進しています。ハイブリッド車の導入は随時行っていますが、2012年度は電気自動車を導入しました。2013年度も、電気自動車が生かせる都心部を中心にインフラ整備および本格導入を検討しています。また、それに合わせて効率巡回を徹底することで燃料使用の削減をはかっていきます。

営業担当者の声

環境に優しいと運転も優しくなります

(株)ジャパンビバレッジホールディングス
営業本部　開発部 部長
堀 江 弘 和

営業本部開発部では、全国にまたがる大手企業様向けに飲料自動販売機および給茶機から食品に至るまで幅広く、環境問題を含めた総合提案を致しております。私は、2012年から電気自動車を使用しておりますが、お客様との商談では、電気自動車をきっかけにエコやCO_2削減の話題になることも多く、私自身も環境に対する意識が今まで以上にあがりました。また、環境に優しいと運転も優しい安全運転になるとの相乗効果もありました。本社機構が集中する都内の営業活動に本当に最適な車です。

Highlight 2

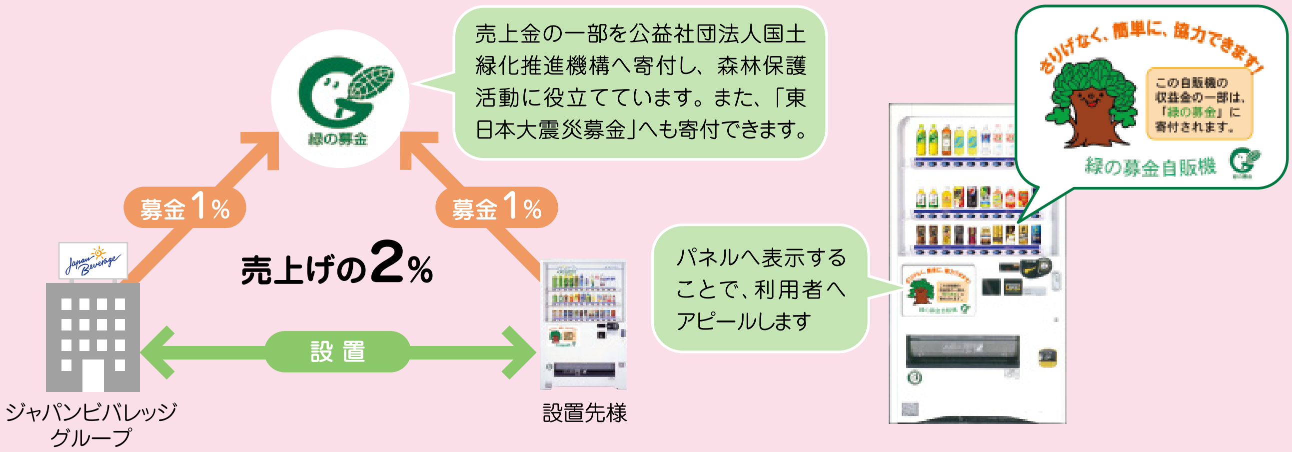
お客様とともに社会に貢献します

ジャパンビバレッジグループは、お客様とともに
自動販売機オペレーションを通した社会貢献に取組んでいます。

「緑の募金」つき自動販売機

ジュースやミネラルウォーターなどの飲料は、森林から供給されたきれいな水でつくられています。また、自動販売機の電力はCO_2を排出してつくられます。CO_2を吸収し、きれいな水を供給する森林に少しでもお返しをしたい…。

そうした想いから、森林整備のために「緑の募金」つき自動販売機が誕生しました。自動販売機の売上げの1%をお客様とジャパンビバレッジグループがそれぞれ募金する仕組みとなっています。



緑の募金は、「森づくり・人づくり」の活動に生かされています。

森づくり

- **国内の森を元気にする**
  水源林の整備、里山の再生、被災森林の復旧、身近な地域の緑化等
- **地球の緑を増やす**
  砂漠化地域の緑化、熱帯林の保全、マングローブの植林等

人づくり

- **森づくりのリーダーを育てる**
  森林ボランティアリーダーの養成研修、林業体験イベント等
- **森で子どもをはぐくむ**
  子どもたちの森林・環境教育、木の文化の伝承等

自動販売機参加件数 272件
（2012年度実績）

エコ&ハローキャンペーン

「環境」と「福祉」を融合させた活動として「エコ&ハローキャンペーン」を実施しています。自動販売機をご利用いただく皆様にアルミ缶を集めていただくと、車いす1台と交換できる仕組みをつくり、運用しています。

お 客 様 の 声　担当者がお客様の声を聞きました！

環境貢献が社会貢献につながります!

山九株式会社
千葉支店　総務担当
髙 梨 洋 様

アルミ缶回収ボックス

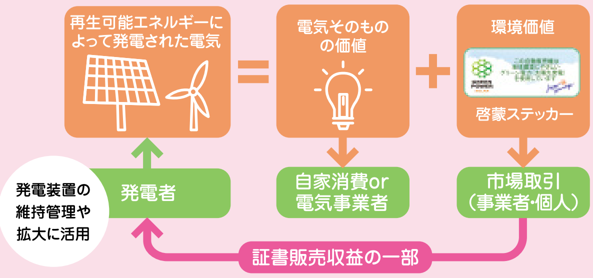
エコ&ハローキャンペーンに参加されている山九株式会社千葉支店様が本活動を採用いただいた決め手は、他の自動販売機オペレーターにはない取組みであったためです。車いすの贈呈時に、ご担当の髙梨様から話を伺ったところ、社内でのアルミ缶の分別・回収を促すため、交換した車いすを自動販売機前に展示したり、社内報に掲載することで社内啓蒙をしているとのことです。

これまで交換された車いす2台は、障害者支援センターへ寄付されており、今後は東北の被災地への寄付を検討していらっしゃいます。髙梨様からは、社会貢献につながる活動なので、今後も続けていきたいとのお言葉を頂戴しました。

山九株式会社様への車いす贈呈

「グリーン電力証書」つき自動販売機

太陽光や風力などの再生可能エネルギーが生みだす電気による「環境価値」を見える化し、市場での取引を可能にしたものが「グリーン電力証書」になります。このグリーン電力証書を自動販売機の消費電力量としてオフセットできます。



お 客 様 の 声　担当者がお客様の声を聞きました！

自動販売機から環境情報を発信!

NPO法人新宿環境活動ネット
（エコギャラリー新宿管理団体）理事
落 合 千 秋 様

新宿中央公園の一角にある「エコギャラリー新宿」（NPO法人新宿環境活動ネットが運営管理を新宿区より受託）は、2階は環境学習情報センターであり、1階は、区民ギャラリー（貸し出し施設）です。その2階にある情報コーナーの一角に「グリーン電力証書」つき自動販売機を設置していただき、来場者に利用してもらっています。

エコギャラリー新宿にて（落合様〈左〉）

「グリーン電力証書」の説明書

本自動販売機に掲示してある「グリーン電力証書」について来場者からの関心が高く、質問も多いため、これに対応して、同法人の活動に参加する大学生が、「グリーン電力証書」についての説明書を作成し、自動販売機の「グリーン電力証書」の横に掲示することで、皆様が理解できるように工夫していらっしゃいました。

落合様からは、新宿区は環境施策に区民・団体・事業者と協働で積極的に取組んでいますので、今後も環境施策に対する情報交換等、ご協力をお願いしますとのお言葉を頂戴しました。

Highlight 3

純度の高い資源をうみだします

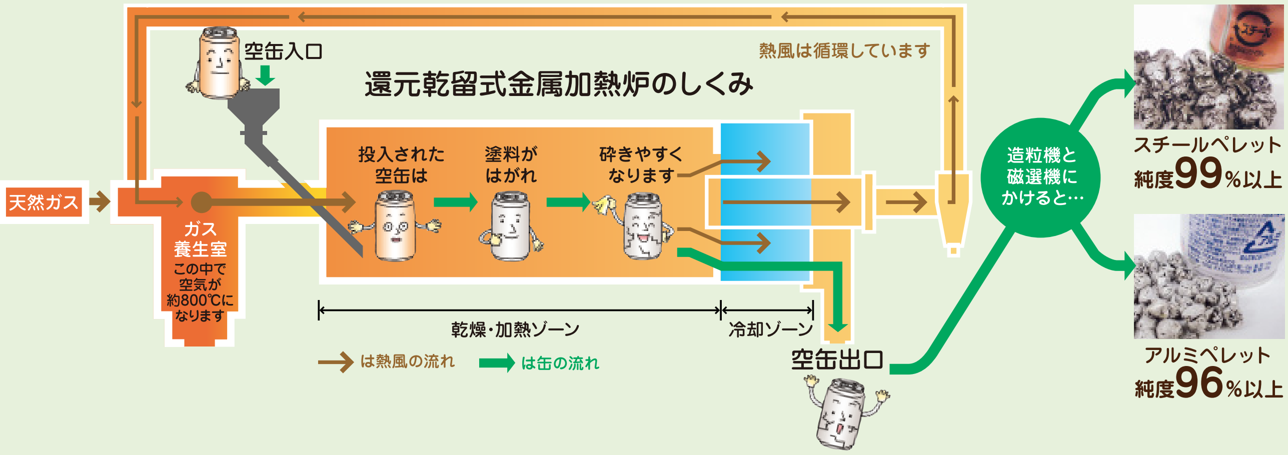
ジャパンビバレッジグループは、自動販売機専業オペレーターとして、初めての飲料空容器の中間処理を総合的に行う「リサイクル・プラザJB」を2003年から稼働しています。

稼働10年目を迎えた業界初の金属加熱炉

2003年5月に設立した「リサイクル・プラザJB」は、2013年度で稼働10年目を迎えました。設立当初は、試行錯誤を繰り返しながら稼働していましたが、徐々に処理量を増やし、現在は年間8,869tの缶・ビン・ペットボトルの再資源化処理を実施しています。

リサイクル・プラザJBの一番の特徴は、金属加熱炉で缶をペレットにしているところです。ここでの処理はとても高度な還元乾留加熱方式が使われており、無酸素状態で缶の不純物を取り除き、缶を熱処理した後、造粒機でペレットに加工します。このペレットの純度は、スチールペレット96%以上、アルミペレット99%以上を保っています。

通常の飲料空容器再資源化工場では、金属加熱炉がないため、ここまでの純度を保つことはできません。そのため、純度の高いペレットは、そのまま製鉄会社の原材料や副原材料とすることができ、とても重宝いただいています。



CO_2排出量の削減

リサイクル・プラザJBは、工場稼働に使用する燃料や電気について配慮することで、CO_2排出量の削減にも取組んでいます。これまでに工場の稼働電力の一部にグリーン電力証書の導入やLED照明の導入、また金属加熱炉の燃料変更（重油から天然ガス）を実施し、年間81t-CO_2削減しています。

グリーン電力証書

子どもたちに環境学習の機会を提供

工場見学

「リサイクル・プラザJB」では、これまでに1万名以上の方々に見学に来ていただいています。単に「見る」だけの工場見学ではなく、環境への取組みの大切さを実感していただけるような場を提供するよう努めています。

工場見学者数10,139名（累計人数）

工場見学

出前授業

地域環境コミュニケーションとして県内小・中学校への出前授業を実施しています。実際にリサイクル製品に触れたり、クイズや体験ゲームに参加し楽しく学ぶことで、リサイクルを身近な取組みとして捉えていただけるよう活動しています。

出前授業参加者数1,486名（累計人数）

出前授業

担当者の声

純度の高いペレットは、チームプレイの賜物です

（株）ジャパンビバレッジエコロジー
運営部主任
丸 田 義 則

当社では収集された空缶を純度の高いペレットにリサイクルするために、さまざまな工程を経ています。例えば、手作業により異物を取り除く工程、アルミ缶とスチール缶を機械で分別する工程です。純度の高いペレットは、いわばさまざまな工程に携わる人とのチームプレイの賜物ですね。このような工程を経て作られたペレットは、「純度が高く再加工する必要がない」とお客様にも喜ばれています。

ペレットの出荷

Highlight 3

Highlight 4

企業連携ネットワークにより、循環型社会を構築します

ジャパンビバレッジグループは、企業連携によるネットワークを構築し、
1企業だけでは成し得ない循環型社会の構築を推進します。

企業連携によるネットワークの構築

循環型社会の構築には、販売から資源再生まで他の企業との連携・協力が不可欠です。そのため、ジャパンビバレッジグループが発起人となり、大手飲料事業者18社が参加する「JB環境ネットワーク会」を発足しました。また、飲料空容器の適正処理や資源再生を効率的に行うため、全国180社の企業と連携した「リサイクルネットワーク」を構成しています。

JB環境ネットワーク会

大手飲料事業者18社が会員となり、飲料空容器の循環型産業の構築と低炭素社会の実現を目的として発足した任意団体です。環境保全に関する調査研究および環境関連の知識・情報等の普及を図り、あらゆる環境保全活動を推進しています。

JB環境ネットワーク会 会員企業 18社　（五十音順）

アサヒ飲料株式会社	株式会社ドトールコーヒー
味の素ゼネラルフーヅ株式会社	日本たばこ産業株式会社
大塚食品株式会社	ネスレ日本株式会社
カゴメ株式会社	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
キーコーヒー株式会社	三井農林株式会社
キリンビバレッジ株式会社	株式会社明治
サントリーフーズ株式会社	UCC上島珈琲株式会社
東罐興業株式会社	和光堂株式会社
凸版印刷株式会社	ジャパンビバレッジ

［事務局］　株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

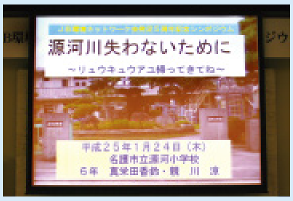
全国180社とつながる「リサイクルネットワーク」

「リサイクル・プラザJB」を中核施設として、全国約180社の廃棄物処理企業、リサイクル企業等に参画いただき「リサイクルネットワーク」を構成しています。各地域の企業と連携し、飲料空容器のリサイクルの効率的な資源循環を実施しています。

JB環境ネットワーク会発足5周年記念シンポジウムの開催

2013年1月にJB環境ネットワーク会発足5周年を記念したシンポジウムを沖縄県名護市の万国津梁館で開催しました。

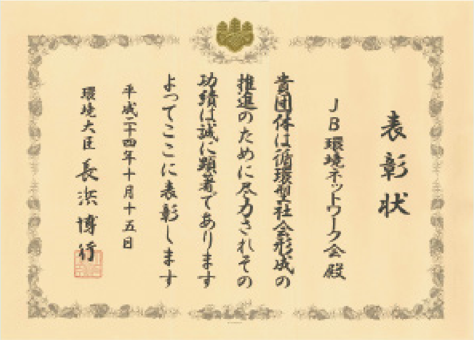
テーマには「美しい沖縄・美しい地球・美しい未来への架け橋」を掲げ、沖縄で環境保全活動に取組む小学校の活動発表や、東洋大学経済学部教授の松原聡氏による講演などを行いました。



5周年記念シンポジウム

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

JB環境ネットワーク会が取組む「飲料空容器の資源循環の推進と環境教育普及活動」が高く評価され、平成24年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰を受賞しました。2012年10月に開催された第7回3R推進全国大会にて表彰式が行われ、園田康博環境副大臣（当時）から表彰状が授与されました。



表彰状

JB環境ネットワーク会殿

貴団体は循環型社会形成の推進のために尽力されその功績は誠に顕著であります

よってここに表彰します

平成二十四年十月十五日

環境大臣 長浜博行

第7回3R推進全国大会での表彰式

Highlight 4

Highlight 5

地域に根ざした活動を行っています

ジャパンビバレッジグループでは、各拠点の特性を生かし、さまざまな取組みを行っています。

取組み1

(株)ビジネスサポートワークス

文書の電子化で省エネを実現!

2012年10月より、「給与明細、賞与明細、源泉徴収票、お知らせ」の4帳票を電子化しました。導入による効果として、当社においては、複写式用紙や各種お知らせ用A4カット紙の削減、発送に係わる仕分け作業の廃止、さらには発送に伴う通信費等の低減に寄与しました。グループ各社においては、この電子化により、各帳票の配布作業がなくなりました。また、グループ外においては、運送業者の運送に係わる燃料等の削減に寄与しました。

発送仕分け作業

取組み2

(株)ジャパンビバレッジホールディングス
(株)ジャパンビバレッジエコロジー

東洋大学で講義を行いました!

東洋大学からのご依頼により、現代社会経済入門の授業にて「現代社会の中の自動販売機」の講義を行いました。自動販売機の歴史から内部構造、そして環境への取組みについて幅広く講義し、聴講した学生からは、「日頃何気なく利用している自動販売機の実情を知ることができた」「初代自販機の復刻版を是非作ってほしい」「リサイクルについても分別徹底を心がけたい」等さまざまなご意見をいただきました。

東洋大学で講義を実施

取組み3

(株)ジャパンビバレッジイースト 所沢支店、さいたま北支店 他

「緑のカーテン」で涼しさを提供!

事業所の窓をゴーヤや朝顔などのつる植物で彩る「緑のカーテン」を実施しています。カーテンがつくりだす日陰により室内の温度が下げられ、省エネの効果があります。また、植物の緑が見た目にも涼しく、従業員の「癒し」にもなっています。なお、育ったゴーヤはおいしくいただきました。

緑のカーテン

環境マネジメント＆パフォーマンス報告

環境方針
（一部抜粋）

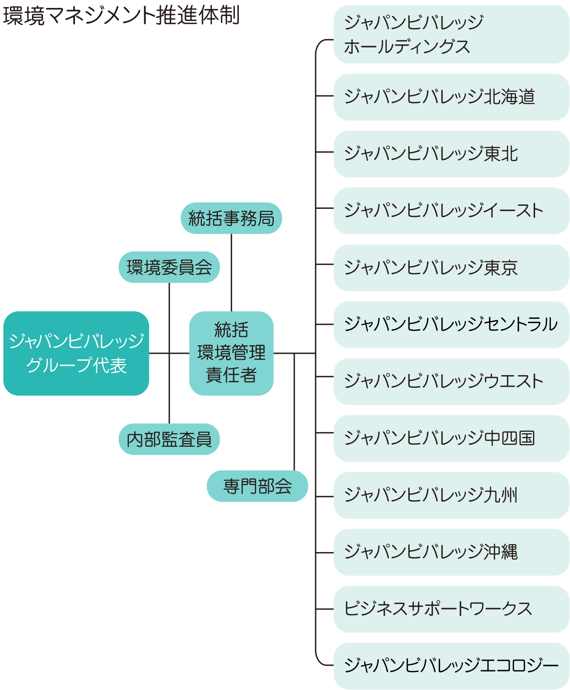
基本理念

ジャパンビバレッジグループは、地球環境が尊い資産であることを認識し社会に貢献する企業であり続けるために、事業及び社員一人一人の行動を通じ、あらゆる面での環境保全を積極的に推進し、潤いと喜びに満ちた持続可能な社会の創造を目指します。

環境マネジメントシステム

ジャパンビバレッジグループの環境マネジメントシステムを継続的に推進するため、組織、役割および責任を定めています。現在は、グループ12社の本社・支店・営業所の合計118サイトで運用を行っています。

環境マネジメント推進体制



※ジェイビーサービス、日新サービスは除く

● ISO14001認証会社の変更

2000年度から環境マネジメントシステムの運用を開始しています。2012度は、ISO14001の外部認証機関を変更し、認証取得しました。

登録証

ジャパンビバレッジグループ

エイエスアール株式会社

認定書

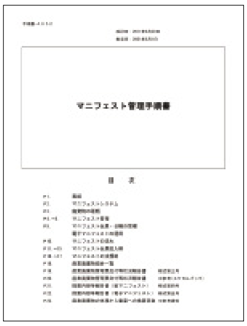
● 環境研修の実施

2012年度の環境研修は、「環境マネジメントシステムの運用」と「廃棄物処理法のポイント」をテーマに掲げ、実施しました。

研修の様子

● 法規制への対応

年々厳しくなる環境関連法令に対応するため、法令よりも厳しい自社基準を設定し、運用強化を図っています。例えば、廃棄物処理法のマニフェストの回収期限、契約書締結基準などです。また、自社基準がきちんと守られているかどうかについては、内部監査時に確認しています。


マニフェスト管理手順書

目次

マニフェスト管理手順書

環境マネジメント & パフォーマンス報告

環境目標と実績

● エコ度の改善

「エコ度」は、自動販売機、車輌燃料、事業所電力によるCO_2排出量と事業所売上の数値を使用したジャパンビバレッジグループ独自の管理数値です。目標値は前年度比1％以上の改善を目指して活動しています。2012年度は、自動販売機、事業所電力は達成しましたが、車輌燃料によるエコ度が未達成となりました。これは、サービス強化のための人員増員によるものです。

項　目	エ　コ　度	2012年度目標値	2011年度 エコ度	2012年度 エコ度	改善率	評　価
自動販売機の消費電力量	自動販売機の消費電力量によるCO_2排出量（kg-CO_2）／事業所売上（千円）× 1,000	エコ度前年度比 1％改善	1,724.22	1,632.45	前年度比 5.3％	○
車輌の燃料（ガソリン・軽油・LPG）	車輌の使用燃料によるCO_2排出量（kg-CO_2）／事業所売上（千円）× 1,000	エコ度前年度比 1％改善	157.91	159.50	前年度比 -1.0％	×
事業所電力使用量	事業所の使用電力量によるCO_2排出量（kg-CO_2）／事業所売上（千円）× 1,000	エコ度前年度比 1％改善	26.99	24.90	前年度比 7.7％	○

● グループ全体の夏季事業所電力の削減（2010年度比）

電力が特に不足する夏季に各拠点で、「事業所電力2010年度比15％削減」を実施しました。達成した拠点は49拠点、グループ全体では12.4％の削減ができました。目標値の15％には到達しなかったものの、事業への影響を与えずに実施の効果を得ることができました。

	7月	8月	9月	7月～9月合計
2010年度実績（単位:kWh）	750,166	840,222	772,444	2,362,832
2012年度実績（単位:kWh）	638,148	746,614	685,792	2,070,553
削　減　率	14.9%	11.1%	11.2%	12.4%

事業活動における資源投入量と排出量

INPUT

エネルギー

電気（自動販売機）	399,856千kWh
電気（事業所電力）	6,364千kWh
ガソリン	1,754千kl
軽油	7,282千kl
都市ガス	179千㎥
LPG	8千㎥
紙	78 t
水	32千㎥

ジャパンビバレッジグループ

- 自動販売機による各種食品飲料の販売
- 各種事務作業の業務代行
- 飲料空容器再資源化

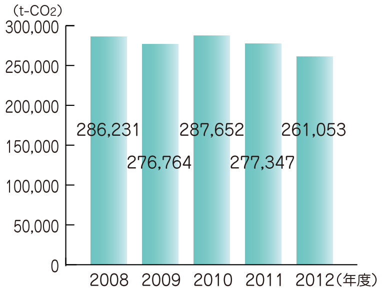
OUTPUT

CO_2	261,053t-CO_2
飲料空容器　回収量	35,483t
飲料空容器　再資源化量	33,474t
飲料空容器　廃棄量	2,009t
その他　再資源化量	8,374t
廃棄物量	2,343t

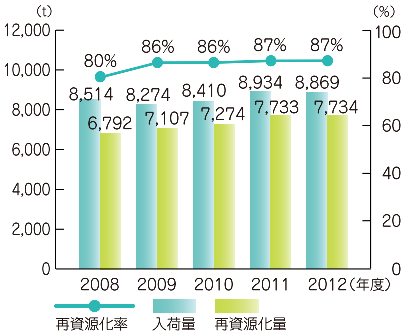
〔二酸化炭素の算出方法について〕「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく換算係数を適用

環境マネジメント & パフォーマンス報告

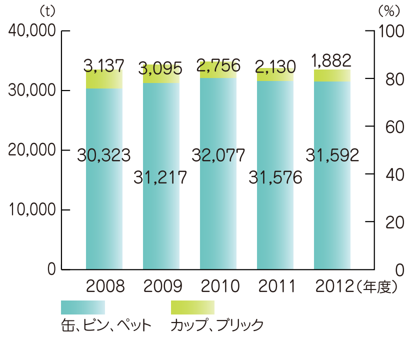
CO2排出量の推移



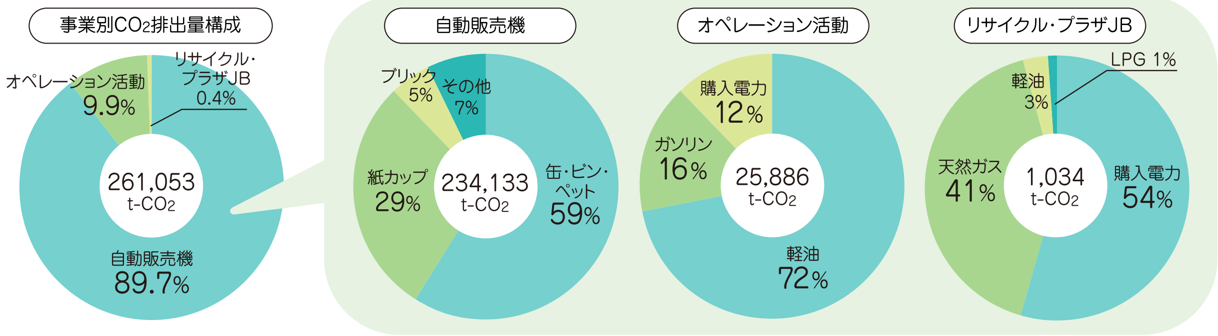
再資源化量推移(リサイクル・プラザJB)



再資源化量推移(リサイクル・プラザJBを含む)



2012年度事業別CO2排出量構成比



第3者意見

杏林大学 総合政策学部
准教授
斉藤 崇 氏

気候変動やエネルギー需給の問題を考えていくうえで、電力消費やCO_2の削減は、取組んでいかなければならない課題の1つです。また使用済み品の適正な処理・再資源化を行っていくことも重要になってきています。

ジャパンビバレッジグループは、自動販売機の設置・運営を全国で行うなかで、そうした課題に取組んでいます。例えばヒートポンプ自動販売機の導入やLED照明への切り替えなどを積極的にすすめて、自動販売機1台当たりの平均電力消費量を10年間で38%削減するなど、継続的な取組みによる成果をあげています。

リサイクル・プラザJBでは、缶・ビン・ペットボトルの再資源化を行ってきました。自動販売機の運営だけではなく、飲み終えたあとの空容器の中間処理も行うなど、リサイクルに対しても積極的に取組んでいます。また工場見学や出前授業をつうじて、子どもたちへ学習機会を提供しています。飲料容器は身近なものでありながら、それがどのように処理されているかは、消費者にあまり伝わっていません。多くの子どもたちにそうした情報を伝えていくことは、今後ますます重要になってくるでしょう。

「Japan Beverage Report 2013」は、そうしたさまざまな活動について整理されており、とても見やすい内容となっています。環境に関するパフォーマンス報告では、「エコ度」という独自の指標をもちいて、目標値とその達成度がどうであったか示されています。環境マネジメントにおいては、目標設定とその達成状況について確認し、継続的な改善につなげていくことがとても重要です。ジャパンビバレッジグループのさまざまな取組みにこれからも期待していきたいと考えています。

PROFILE

慶應義塾大学経済学部卒業。慶應義塾大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得退学。博士(経済学)取得。鹿児島国際大学経済学部講師を経て、現在、杏林大学総合政策学部准教授。専門は環境経済学、環境政策。

「Japan Beverage Report 2013」を
お読みいただき、ありがとうございました。
皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

本レポートは、ジャパンビバレッジグループの理念と事業の現状、
および環境の取組みをステークホルダーの皆様にわかりやすく
お伝えすることを目的に発行しています。

皆様からご意見、ご感想をいただき、
活動の内容や本レポートをより良いものにしていきたいと考えております。
つきましては、お手数ですが裏面のアンケートにご記入の上、
ファックスにてお送りいただけると幸いです。
2013年10月

本レポートに関するお問い合わせ先

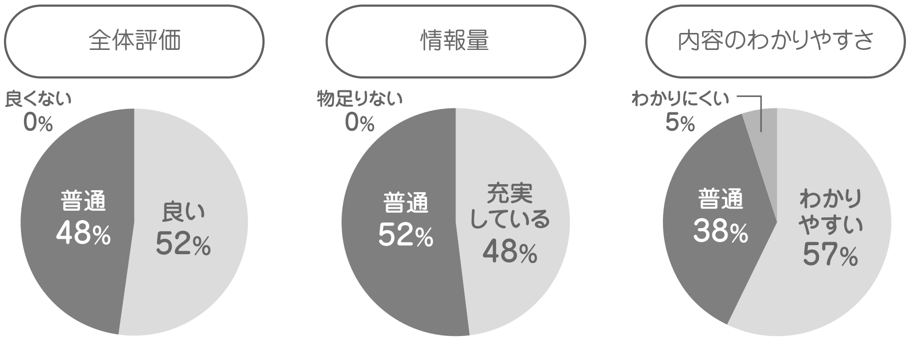
株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町2丁目272番地5

TEL：048-651-1166　FAX：048-651-6611

ホームページ　http://www.jbinc.co.jp

「Japan Beverage Report 2012」のアンケート結果



アンケート結果を受け、
2013年度版では、
右記について改善を図りました。

◎お客様や担当者の声をできるだけ掲載し、「顔が見える」レポートを目指しました。

◎特集にて、「グリーンオペレーション」の省エネ効果を紹介したり、
巻末に第三者意見を掲載し、情報量の充実に努めました。

◎ジャパンビバレッジグループの強みや特徴を見出し、
イラストや写真で端的に伝えるよう、わかりやすさの向上に努めました。

「Japan Beverage Report 2013 」へ 皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

Q1 本レポートを読んでどのように感じられましたか？

全体評価 ………………………… □良い □普通 □良くない

内容のわかりやすさ ………………… □わかりやすい □普通 □わかりにくい

Q2 本レポートのなかで関心のあった内容をお聞かせください（複数選択可）。

□ ジャパンビバレッジグループの概要（p1）
□ TOP MESSAGE（p3-4）
□ ジャパンビバレッジグループの事業紹介・グリーンオペレーション（p5-6）
□ Highlight 1 グリーンオペレーションで省エネを実現します（p7-8）
□ Highlight 2 お客様とともに社会に貢献します（p9-10）
□ Highlight 3 純度の高い資源をうみだします（p11-12）
□ Highlight 4 企業連携ネットワークにより、循環型社会を構築します（p13-14）
□ Highlight 5 地域に根ざした活動を行っています（p15）
□ 環境マネジメント＆パフォーマンス報告（p16-18）
□ 第三者意見（p18）

Q3 ジャパンビバレッジグループの取組みについてのご意見・ご感想、良い点や改善すべき点があればお書きください。

Q4 どのようなお立場でお読みになりましたか。

□お客様 □近隣住民の方 □お取引先 □政府・行政関係 □教育・研究関係
□金融・投資関係 □NGO・NPO □報道機関 □企業のCSR・環境担当者
□ジャパンビバレッジグループの社員・家族 □学生 □その他（ ）

Q5 あなたのプロフィールについてお聞かせください。

年 齢 …………… □10代 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代以上

性 別 …………… □男性 □女性

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー 環境部

FAX：048-651-6611

Japan Beverage

●発行・お問い合わせ先

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町2丁目272番地5

TEL：048-651-1166　FAX：048-651-6611

ジャパン ビバレッジ グループ

ホームページ　http://www.jbinc.co.jp

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 www.fsc.org FSC® C017322

VEGETABLE OIL INK

Waterless Printing. Naturally.

この印刷物は、適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙を使用しています。
また、大豆油インキを包含した植物油インキと有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。